

家庭学習の手引き

No.2

鯖江市片上小学校

今、重要視されている算数での「説明する力」について

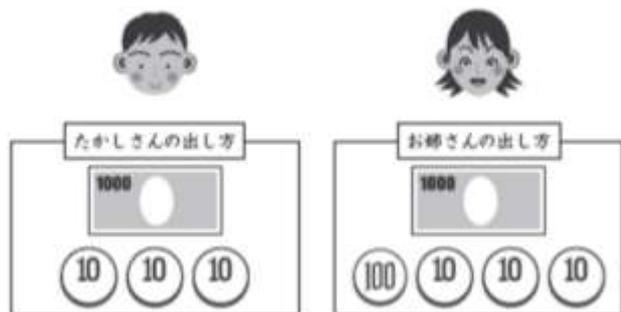
お子様の算数の教科書を見ていただいたことがありますか？見ていただくと気が付かれると思いますが、教科書のいたる所に、「〇〇について、説明してみましょう。」といったことが書かれています。

これは、今までの教科書にはあまり書かれていなかったことです。算数という教科は、「問題を読んで式を立て、それを解いて答えが正解ならそれで終わり！」と思っている方も多いのではないのでしょうか。しかし、今の算数では、自分が正解すればよいのではなく、「どうしてそういう答えになるのかを人に筋道立てて説明する力」が求められています。例として、今年度実施した全国学力学習状況調査：算数B問題（6年生4月実施）を挙げます。

たかしさんとお姉さんが買い物に行きました。品物の代金は630円でした。

たかしさんは、おつりの硬貨の枚数を少なくするために、お金の出し方をくふうして、1000円札に30円を加えて出そうとしました。

すると、お姉さんが「1030円に、あと100円加えたら、おつりの硬貨の枚数ももっと少なくなるよ。」と言いました。



たかしさんとお姉さんの出し方では、お姉さんのほうがおつりの硬貨の枚数が少なくなる考えられます。

お姉さんの出し方のほうが少なくなる考えられるわけを、2人のおつりの硬貨の種類と枚数を比べて、言葉と数を使って書きましょう。

<正答例>

たかしさんの出し方では、 $1030 - 630 = 400$ で、おつりは400円になり、100円玉が4枚です。

お姉さんの出し方では、 $1130 - 630 = 500$ で、おつりは500円になり、500円玉が1枚です。

4枚より1枚のほうが少ないので、お姉さんのお金の出し方のほうがおつりのこう貨の枚数が少なくなると考えられます。

<誤答例>

★たかしさんは400円で、お姉さんは500円からです。←硬貨の種類や枚数について書いていない。

★お姉さんの出し方は $1130 - 630 = 500$ で500円玉が1枚になるからです。←比較していない。

<解説>

上の問題のような「ひき算」自体は3年生で学習していますが、問題の下線部にあるように、「2人のおつりの金額を比較して、硬貨の種類・枚数までを書く」ことは意外とできていないのです（正答率は、福井県48.3%、全国42.5%）。

細かいように思われるかもしれませんが、算数といえども「筋道立った説明」を「正確に書く力」が求められているのです。

また、日常生活と算数との結び付きも大切です。大人にとって、おつりの金額が半端にならないようにお金を出すことは日常よく行われていることですが、子どもにとっては、買い物の際の工夫したお金の出し方について、その良さを実感させる機会が少ないことが考えられます。

学校での学習指導においても、日常生活での様々な計算の工夫を授業に取り入れ、数理的な処理のよさを実感できるようにするとともに、ご家庭でも買い物の場面においておつりの硬貨を減らす支払い方をお子さんと一緒に考えるなど、いろいろな場面で算数と関連付けた生活体験をさせることを意識していただくとありがたいと思います。

なお、別紙「平成24年度全国学力・学習状況調査結果のお知らせ」にありますように、「家庭でも読書をする時間をつくる」「家庭で子どもたちとたくさん会話をする」ことなど、家庭は子どもたちの成長を支える大切な場所です。ご一読いただきまして、各ご家庭でのご協力よろしく申し上げます。